

令和2年9月教育長定例記者会見

【質疑応答】

《令和3年度広島県公立高等学校の入学定員について》

N H K 高校の入学定員なんですけれども、10学級減というのは、例えば過去5年とか過去10年とかで、一番多いのかということと、中学3年生〔の在籍者数の推移〕を見ると、この後数年は減らない状況になっていると思うんですけれども。となると、来年度からは学級減は止まるのかという、2点をお願いします。

教 育 長 はい、まず一つ目の御質問であります過去の学級減について、こちらに資料がないので（事務局に）お願いします。

学校経営戦略推進課長 ここ3年、すごく減っているんですけれども、過去にはもっと減った時期がございます。平成元年度以降ということなんですけれども、平成3年度の入学定員で32学級減というのがございます。それから、平成9年度には27学級減というのがありまして、それと比べるとだいぶ少ないです。ただ、当時は生徒の数自体が相当多かったもので、そういう意味では、今の方が学校に与える影響というのは大きいということがございます。

教 育 長 あと、今後、地域の卒業見込者数とか入学者数の近年の状況とか、あるいは所在地などの地理的条件を勘案いたしまして、今後それ（入学者定員）についても、多少増やすということは、十分考えられることかと思えます。

《高校入試の出題範囲等について》

中国新聞 高校入試に関連しての質問なんですけど、学校現場において休校に伴う学習の遅れがまだ取り戻せないとも聞いています。6月に教育長が出題範囲の変更は考えていないと述べられたと思うんですけれども、その考えにお変わりはありますでしょうか。

教 育 長 はい、今の時点で、臨時休業から学校再開後、県内の中学校におきましては、臨時休業期間中の家庭学習の定着状況を確認していただいているとともに、指導に必要な授業時数を確保するために、長期休業期間の短縮、それから学校行事の重点化などの見直しを進め、学習指導要領の内容を全て学習できるよう対応していただいていると認識しております。したがって、現時点においてですけれども、公立高等学校入学者選抜の学力検査の出題範囲については、縮小しない考えに変わりはございません。